



論説

# 都會美・道路美・家屋美

田川大吉郎

一

都會といふものは飾らねばならない、美なる所があつてこそ都會である。道路といふものも飾らねばならない、美なる所がなくては本當の道路でない、別けて都會の道路に於てさうである。家庭といふものも飾らねばならない、裝飾のない家屋は家屋でない、それは人としての住居に適しない。

斯く申すことは、私の獨斷以上である、けれども、私の獨斷の説と曰はれても一向構はぬ。私はこの際古人の説を、かれこれ引用してそこにぐづく時間を費すことをしない。

諸以上の如き原理に照らして、近來の日本の都會を見る、日本の都會は都會らしく飾られ、その美を年々増進しつゝあらうか、道路は何うであらう、家屋は何うであらうと考へ來つて、然り、日本の都會と、

道路と、家屋は、年々その美を増しつゝある。日本國民は、美を解し、美を崇め、美を嗜む國民である、その反映として、日本の都會と、道路と、家屋は、よく美的に配置され、建設され、裝飾されつゝあると、誰か一人、怯びれずして放言し得る者があらうか。

他にその人はあるかも知れない。が、私としては何うしてもさうは言明し得ない。

## 二

大震災以後の東京市が、その以前の東京市にくらべて急に著るしく面目を一變したことは申すまでもない。しかしながら、その一變したことは、必らずしも、美的に能く改造せられたといふことではない。たゞ、改造せられたといふことゝ、美的に改造せられたといふことゝの間には距離がある、それは別物である、注意して視察し、批判されなければならない。

先づ、東京市として、市域の問題は他日に譲る、市内の道路の整理、廢合、按排は遺憾なく、好く出來たであらうが、私はそこに議論のあることを懼れる、但し、その最大の計畫としての昭和道路の建設は頗る可かつたと私は認めて居る、ただあの如き計畫は、あれだけに止むべきであつたらうか、否かゞ問題となるのである。大震災に後の計畫に、昭和道路の外、何の計畫があつたかといふことが問題となるのである。

それに對しては、大震災火災後の、大狼狽の場合である、大混雜の場合である。急決斷、急設計、急施設を要した場合である、何事も、慎思、熱慮、潛心の研究が出來ない場合であつたからとの言ひ譯がある、その

通りだから、そこに幾多の缺陷のあつたこと、現にあることは、當事者の、甘んじて承認する所であらう。それを如何に修正し、補足し、善美の都會を作るかといふことが今日の問題とならなければならぬのである。私はこの點に於て、専門家の批評を靜かに求めたいのである。

最近に私は東京驛擴張の計畫を聞いた。現住地を、現住地のまゝ配線上の設備を更に擴張して改善せらるゝと聞いたのであるが、それよりもあの位地は日本鐵道の大終端驛として適當の所かといふことに根本の問題があるのでなからうか。且、あすこは鐵道を取り拂つて、ビルディング街として建設し、經營することが、より適當な方法であり、東京市として、當然の面目必至の配備でなからうかと思はるゝのである。現状のまゝの丸の内は、東京市の「都心地」その東京の「都心地」として、甚だ狭い、あすこの鐵道線路を取り拂つて、東京驛の建物を、全部商店、會社等の事務所に取り換ゆると同時に、線路を取り拂つた跡地にも、新種の高層建物を建てたら、一層適當で便利でないか、或人々は、それは、もう後の祭りだ、死んだ子の年を數へる様なものだ、と謂はるゝだらう。さうであらう、さうだと思ふけれど、私は東京市の將來のことを思ふて、尙、この説を支持する者である。

内務省や、大藏省の移轉の跡印刷局や、會計検査院の移轉の跡等を、東京市役所の移轉地にあてたいとの説があり、その他役所風のもの、をあの邊に尙建てたらばとの説を聞くが、私はあの邊一帯は、全部商店街とし、以て前に述べた大東京市のビジネスの中心地として、頗る狭きを感じつゝある丸の内の區域をつとめて、それらの利用に充つべきであると思ふ。東京市役所は、日比谷公園の一角に建てた

い私の意見である。

東京驛より濠を越へて、日本橋榎町側へ出入口を作り、その榎町側に四十間幅の大道路を作られたことは失敗でなからうか、それに就ても、今日は批評していつ時批評の起るべき機會であらうと私は思ふて居る。

三

前段の所説は本論の標頭に副はなかつた、私は前段の所説を以て、本論の都會美を解説する如き資料だと思ふた譯ではなかつた、東京驛のことが、とも角も今日の一問題となつて居る故、平生の思ふてゐた所を斯く掲げたのである。とは云へ東京驛の現に斯の如く在ることを、東京市全體の構造美の上からも、一問題として考へて下さるれば仕合せである、東京市は何としても適當に飾らねばならない、東京市を適當に飾ることは東京市民のみならず、日本國民の願ひでなくてはならない。又その誇りでなくてはならない、東京驛のあの位地、あの作り方、丸の内ビジネス中心地の、あの如き作り方は、それに、多大の影響關係がある筈である。

それよりも本論は、道路美を旨とすべきもの、東京市中の道路、或はその街路は、その必要とする美的景狀を現に、既に備へ得て居ると爲すべきであらうか、それには、今一層の設備を加ふる必要があるのであるまいか。

東京市中の主なる道路には、現に、街路樹が駢植してあつて、それに類する綺麗である。何人も、あれを

無用の設備とは謂ふまいけれども、あの街路樹は、その伸び行く頭を既に電信線で妨げられて居る、街路樹の中には、此の上伸び相なものもあるが、尙伸び得るものがある、能ふだけ伸ばしたいと願ふけれど、電信線が、あの如く遮つてゐては駄目である、樹は伸びんとしても伸びることが出来ない、あの電信線は至急に撤廢さるべきものであらう、それに關係の役所は、内務省、大藏省、逓信省といふ中にも東京市こそ、その影響を痛感すべき當面の役所である、何とか工夫せられたいものである、無論市中に架け渡された電信、電燈、電話等の線が、東京市の美を汚損して居る影響は少小でない。

東京市は、街路樹を以て路面を飾つた外には、何の飾りも路面に施してゐない、且つ務て、その路幅を廣げ、又路筋を一直線に作らんとして、名のある古木等をも移植せしめたのであるが、斯の如きは、強ゝて移植せしめずとも、そのまゝ、残し置き、それを中心として、廻轉路を作り、若くは噴水塔を作り、若くは廣場等を作つた方が、經濟上にも利益があつたらうし、それは、場所次第である、一概に律せられないとしても、都市美の保存、擴張の上からは、實に、必要の注意、施設であつたらうと思はれる。過去は及ぶべからずとするも、今後は、一層の注意をこの方面に屬せられたいものと思ふ。

それよりも、前に申した回轉路である、それに適した廣場である、東京市は餘りにそれを缺いで居ると思ふ。東京市中での大都會としては、それだけ、交通の頻繁な所としては、回轉路は、もつと多くあるべき筈と思はれる、それがあれば、もつと多く節ることができると思はれる、東京市は、京都市よりも見物する所が少い、或は、大阪市よりも少いかも知れない、人の目は、たゞ一直線の路の、そして、それに聯ふ

角形の低い平びつたい建家の連続には、快感を感じ得ないものである。不足を感じるものである。別に、高い塔か圓い屋根か、とり／＼の色が變つた刺激を要するものである。東京市にはそれが少い。東京市の市面は、實に單調である。無趣味である。殺風景である。都會として、優美の都會らしい感じが餘りにも稀薄である。道路として、たゞ路筋が通つて居り、泥濘がなく、砂塵がなく、石塊がなく、凸凹がなく、坦々として往來にさへ故障がなければそれで足れりとするか、それは餘りにも人の欲望を無視した考へ方、作り方であらう。東京市にはもつと、人の目を樂しましむるに足る。人の心を悦ばしむるに足る。人に路の遠いのを遠いと思はず喜んで歩かしむるに足るだけの、美くしい、心地のよい目をば惹きつくる道路を要し、道路に屬する設備を要し、又、建物を要する。道路を作る人々は、先づ、それだけの用意と工夫を有たねばならない。

前に噴水塔のことを申した。路面に設くべきものは、必らずしも噴水塔と限らないが、私は、東京市の路面にそれを欲しいと思つて居る。それは、その格好にもより大小にもより、高低にもより、周圍にもよることであらうが、實に路面の美を飾り、行路者の情を悦ばしむるに、大いなる力のあるものは噴水塔である。その設計は、必らずしも道路技師の任でなからうけれども、道路技師の考への中にもそれらを設計し得る場面の工夫や、計畫の餘裕はあるべきものである。今日の技師は或はそれを缺いで居りはしないか、しかしながら、その根本の責任は、市の當局者に在らう。當局者に、市面を飾り、路面を飾り、市民の心を和らげ進めしむる美的都會を作らうとの理解と計畫とが缺けて居るであらう。

噴水塔、若くはその如きものを所々に作るとして、東京市を記念するいろ／＼の銅像、或は碑石の如きものも、道路の中央に在つていゝと思ふ、勿論、その在るべき所は十字路であらう。そこが前に申した回轉路である。銅像が碑石を中心として十字路を作り、回轉路を作るのである。それが、一哩ごと、二哩ごとに在るとする、それは、自動車や、自轉車の疾走の邪魔には決してならない、反つて便利にならう。實際、日本の都會ほど銅像の如き飾り物の少い都會は世界の各國にない、それは、銅像の類を作るといふことが、世界の各國には、古くからの流行で日本には新らしい習慣だといふ趣味、嗜好の相違にも因るだらう。しかしながら、九段坂を登つて左り手の横側に川上大將と品川子の銅像があるが、あれを路の眞ん中に建てたら何うだらう、現在の如くあれを横側に片寄せて置くのと、路の眞ん中に押し出して置くのと、どちらが路の美觀を増し、人の氣分を樂しましむるに足るとするか、足らないとするか、考察して貰ひたい、招魂社の境内には、大村兵部大輔の銅像が路の眞ん中に建られてある、相くらべ視て、どちらがよく、どちらがよくない、三尺の童子も、その判斷には迷はないであらう。私は斯の如き折角の記念物を路の横側に控へ目に建てた、從來のやり口を、太分飽き足らず思ふて居る者である市の當局者も、將た、設計の技師諸君も、路面を堂々として飾らんとする主張を、何故に憶せらるゝか、私の疑ふ所である。

歐米の都會なら、必らず基督教々會の尖塔が數々あつて、ロンドン市中の建物の平調を破り、市面の美を飾つて居るが、日本の都會では、この事は永久に望まれない、日本に於ては、それに代る特種の建物

を有しなければならぬ、さうでない限り、日本の都會、特に、その新都會は、永久に、美の裝置を缺くことになるであらう。これは頗る残念なこと、何とかして補足しなければならぬ、私は、その一案として、各小學校の屋根に必らず時計塔を建てしめることにしては如何と思ふ、その費用を氣遣はるゝかも知れないけれど、今日の小學校の建築は、いづれも、二十萬圓三十萬圓かゝつて居る、それ以上かゝつて居る所もある、それ故、作らうと思へば必らず作れる、その費用は多く案するに足らないと私は認むるのである、且、この事は中學校にも、専門學校にも、大學校にも及ぼすが可からうと思ふ。同じ考へ方で、私は、高層建築者に、高塔を作らすことを獎勵し、些少なり資金を補助したらいいと思ふ、資金を補助しないまでも、その建築に便宜を與へ、自由にその設計を許すこととし、決して億劫がらせない様にしたいと思ふ、その他、何かありはしないか、何にしても、市の路面、並びる空際をもつと、美しく飾りたゝいと願はざるを得ない。

#### 四

家屋美のことにつき、更に述べたいと思ふが、既に長くなつたから、ざつとこの邊に止むるとして、東京市は、市民の住宅建築の上にも、し商店事務所等の建築の上にも、固より注意を拂ひ、その構圖に注意するの外、その色彩にも注意さるべきであらうと私は思ふて居る。

勿論、この事は警視廳に關係がある、關係があるといふよりは、寧ろ警視廳の專管になつて居るのであるが、そのまゝに爲し置くべきであるまい、東京市に於て、或種類、或程度のこととは、それを指揮し、それ



に干渉すべく、若干の責任を負ふべきであらう。

東京驛前の丸ビルは、東京市中で、目に着く最も評判の建物であるが、その格好は、何といふ無格好な、そして、その色彩は又何といふ不愉快な色彩であらう、あの色合を見ては、誰しも見にくいと思ひ、いやな感じを催さざるを得まい、決していゝといふ感じを起さないと思ふが——私の友人等は皆さう申して居る——それが東京市の大玄關、何人の目にも着く、一番大事な、一番晴々しい場所に當つてゐるのであるからたまらない、早く塗り替せたいものだと思ふ、聞けば近く塗り替する模様である、當事者にも、無論充分の思慮はあらうが、かゝる場合、市にも相當の係り員があつて、その計畫をきき、それに批評を入れ、東京市の意圖を表現し得せしむることになればいゝ、さうならなければならぬ、ざりとて、東京市が、無暗矢鱈な、色彩を注文する筈もない所詮は、近所の建物と調和を保たしむるのである、それに對する突飛な不調和を制するのである、それで、その邊一帶の色彩を調整し、統一し、氣分と狀態とを融和するのである。從來斯の如き用意施設を缺いてゐたのは、東京市のため、甚だしい缺事、恨事であつたこの際の事としては、丸ビルは丸ビルである、東京市は如何ともすることが出来ないものであるから、私は、丸ビルの自由裁量に於て、あの建物の色彩を、人に快感を與へる、人に不愉快の感じを與へない、他の色彩に塗り換へ、且、近所の建物と、よき調和を保つに至らせられんことを祈る。

此の篇は盡くさなかつた、又他日を期する、美飾、美裝、美を觀點として、東京市その他、各地の市を見れば、市そのものの上にも、道路の上にも、家屋の上にも、論すべきことが頗る多い。